

宇都宮市民憲章

- 1 健康で、心のふれあう明るいまちをつくります。
- 2 きまりを守り、活気あふれる楽しいまちをつくります。
- 3 学ぶことを大切にし、文化の薫る美しいまちをつくります。

編集・発行 宇都宮市立図書館 明保野町7番57号 〒320 TEL 36-0231

としあか

図書館を探検しよう!!

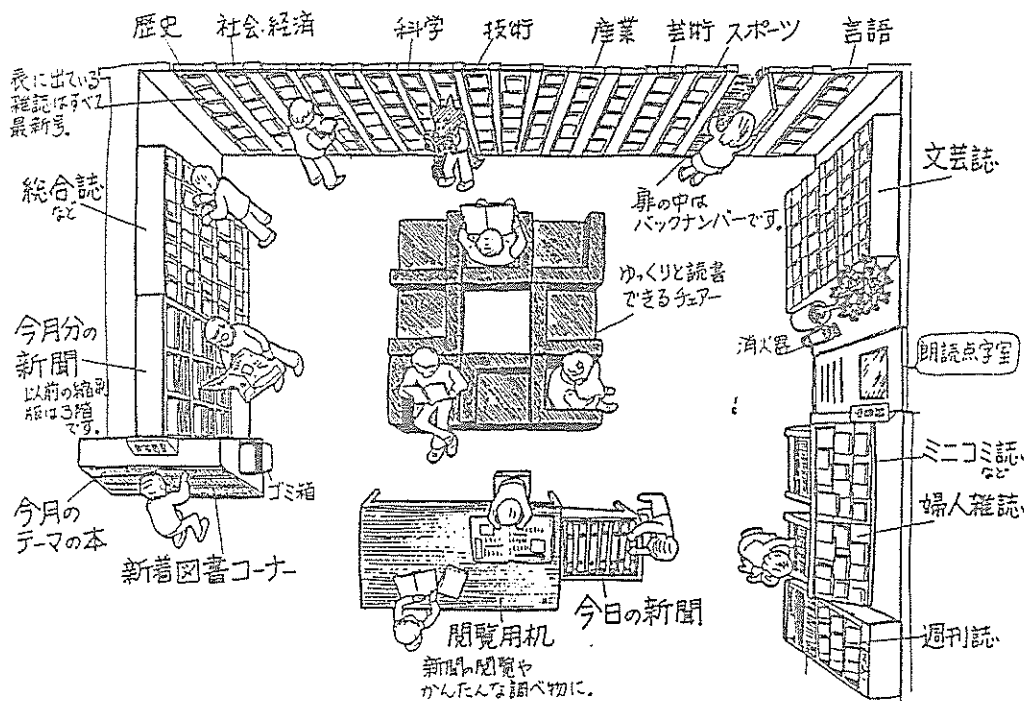
④ 一般開架室の巻
その2

一般開架室を入り、すぐ右に曲がると雑誌コーナーがあります。ここには雑誌の他に新聞もおいであります。

まずはじめに
雑誌の案内

ここには、247タイトルの雑誌があります。内容ごとに分類して並べてあります。また、利用の多い週刊誌婦人雑誌は、エレベーター隣の書架に別に置いてあります。ここには、タウン誌・洋雑誌などもいっしょに並べてあります。

▽一般開架室・雑誌コーナー見取図



「最新号とバックナンバー」
表に出ている雑誌は最新号です。目印として赤ラベルがついていますが、最新号の雑誌は、貸し出しや



コピー、予約ができません。プラウジングコーナーで、ゆつくりとご覧ください。
雑誌架は、開くようになっていて、中には一年分のバックナンバーが入っています。週刊誌は、数



次回は

高書架

雑誌コーナーの一角に、新着図書の本があります。図書館に入った本は、まずここに並びます。何月に入った本か、図書ラベルの上の赤ラベルに表示がしてあります。貸し出ししてありますので、どんどん利用してください。
他に、月ごとにテーマを決めて本を集めておいてあります。新刊案内「あたらしい本」、テーマ別案内「〇月の本」もありますので、ぜひご覧ください。

「新着図書」

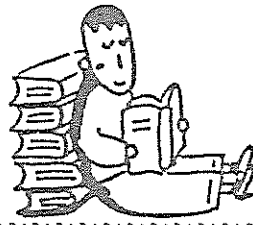


今日の分の新聞は、テーブル隣のボックスの中にあります。新聞は利用する人が多いので、ゆづりあって見てください。また、今日の分の新聞が、雑誌架と並んでおいてあります。新聞の縮刷版が三階調査相談室にありますので、あわせてご利用ください。

「つぎに」
新聞の案内

が多いので、一ヶ月分だけが書架に出ています。それ以前のものは、保存書庫にしまっています。

世界の文学に遊ぶ



各国の文学③

今回は、ドイツ文学とロシア文学（ソビエト文学）の全集・作品集について紹介します。

作品集には、単行本にはなにくい小品などもおさめられていますので、作者の別の一面を発見できる楽しみもあると思います。また、作品論や年譜など、作家研究に役立つ資料が付いているものもあります。お好きな作家の作品集をじっくり読んでみてはいかがでしょう。

各国の文学作品集・個人全集は、一般開架室北側の高い方の書架にあります。一部保存書庫に置いてあるものもありますので、わからない点は職員におたずね下さい。

◇『ドイツ・ロマン派全集』国書刊行会

十八世紀末から十九世紀初頭のドイツで「宇宙をめぐめる旅を夢み」、美と幻想の王国を構築したドイツ・ロマン派。

ロマン派第一世代のテイクから、ロマン主義最後の星といわれるアイヒェンドルフまでの傑作を集めた作品篇八巻のほか、評論篇二巻、ロマン派画集一巻からなるこの全集は、まさにドイツ・ロマン派の集大成といえます。特に、第八巻の短編集には、バッケンローダーの芸術家小説をはじめ、本邦初紹介の作家の異色作も多数収録されており、興味深い一巻になっています。

◇『ツヴァイク全集』みすず書房
ドイツ語による現代作家の中で、その作品がツヴァイクほど世界各国で翻訳され、版を重ねている作家はいないでしょう。

彼は、その小説で、フロイトの深層心理学とウィーンの多彩な情緒的粉飾とを用いながら、多くは破滅へとつきすすんでゆく主人公を、次々に分析しきらびやかに描き出しています。この全集におさめられているツヴァイクの自伝『昨日の世界』の中には、小説の原型としての人物や感情がちりば

められており、小説とあわせ読むことで、作者ツヴァイクに対する新しい視野がひらかれてくると思われるます。

◇『ドストエフスキ全集』河出書房新社

『罪と罰』をはじめとする五大

小説のほかに、日記・書簡・論文・記録にいたるまでを完璧な形で網羅した、文字通りの完訳決定版です。ロシア文学者の米川正夫による個人全訳で、訳者の遺稿を含む創作ノートが主要小説につけられています。

全 集 名	出 版 社	巻 数
決定版 カフカ全集	新潮社	全12巻
ゲーテ全集	潮出版社	全15巻別巻2
ゴットフリート・ベン著作集	社会思想社	全3巻
ツバイク全集	みすず書房	全21巻
ドイツ・ロマン派全集	国書刊行会	全10巻別巻1
トーマス・マン全集	新潮社	全12巻別巻1
ヘルダーリン全集	河出書房新社	全4巻
ホーフマンスタール選集	河出書房新社	全4巻
リルケ全集	彌生書房	全7巻
ルー・ザロメ著作集	以文社	全5巻別巻1
エロシエンコ作品集	みすず書房	全2巻
ガルシン全集	青河書房	全1巻
チェーホフ全集	中央公論社	全16巻
ドストエフスキ全集	河出書房新社	全20巻別巻1
決定版 ドフトエフスキー全集	新潮社	全28巻欠号あり
トルストイ全集	河出書房新社	全19巻別巻1
プーシキン全集	河出書房新社	全6巻
マヤコフスキ選集	飯塚書店	全3巻

新聞記事スクラップ

市立図書館では、昭和六十二年、一月より、とちぎ朝日・宇都宮よみうり・下野・栃木・日本経済・朝日・毎日・読売の各新聞より、宇都宮に関する記事をみつけて、スクラップブックに貼る仕事を続けています。

スクラップしている記事は、ざっとあげても、図書館・郷土出版物・宇都宮市政・警察・消防・住民運動・自治会・生活消費者問題・社会福祉・物価・保険・労働運動・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・社会教育・年中行事・祭礼・都市計画・道路工学・河川工学・上水道・下水道・公害・農業・スポーツ・事件などあり、他にもいろいろあります。

例えば、ふるさと宮まつりや大谷ストーン・フェスティバルについて知りたい時、年中行事・祭礼のスクラップブックを見る事により、質の高い情報が得られますし、思いがけない事実を発見したりします。

スクラップブックは、調査相談事務室に、分類順・日付順に配架されておりますので、閲覧を希望の方は、調査相談カウンターの係へお申し込み下さい。

ずいひつ講座

増田れい子氏

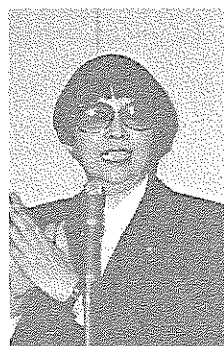
九月二十五日(日)、本年度第一回

目のずいひつ講座が開催されました。講師は増田れい子氏。毎日新聞の論説委員、「女のしんぶん」編集長とジャーナリストとして多忙をきわめるなか、日常生活に密着した随筆を数多く発表し、エッセイストとしても精力的な活動を展開しています。講座のテーマは「書くこと、生きること」。

まず初めに、増田氏が最近行った吉野紙の取材の話为例にあげ、よい作品を書くためには、よい取材をすることが大切であるとお話

しになりました。物事にはすべてドラマと言えるものが含まれており、それを見つけたす作業が取材で、この取材をうまくやるかどうかを書くものの価値を決めてしまうとのことでした。

次に、ものを書くこうとする人は、まず徹底的に読まなければいけないと話され、読書の必要性を強調されました。そしてここで御自身の読書歴を披露。漫画にはじまり文学から社会科学へと続く氏の読書談には、「片っ端から」という言葉が頻繁に使われ、その読書量



の豊富さをうかがわれました。

最後に日本語の美しさにふれ、月や雪、雨といった自然を描写する日本語が如何に豊かかを語りました。

ペンをもつ力の続く限り書き続けたいとおっしゃる増田氏。「雨の日は楽しくが私のモットー」の初めの言葉とおり、終始にこやかな話しぶりでした。

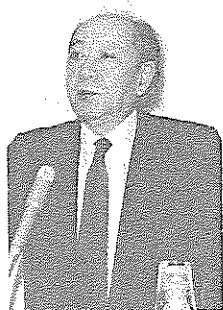
読書活動推進講座

山本太郎氏

今回は、詩人の山本太郎氏をお迎えして「白秋と蕁心」というテーマで、山本氏の伯父にあたる北原白秋について語っていただきました。お話は大きく分けて二つの部分、一つは白秋の人物像について、もう一つは白秋の作品について。白秋の人物像については身内ならではのエピソードなども聞くことができました。例えば白秋は大酒飲みで、酔うと犬のように人の顔をべろべろなめたこと。また音痴で人前ではめったに歌を歌わなかったことなど。白秋の作品を

めぐっての部分では、作品が生まれた背景、山本氏の評価などをお話になりましたが、圧巻は、山本氏御持参のテープで聞いた白秋の自作詩「邪宗門秘曲」の朗読。極端に抑揚をつけた、まるで歌のような朗読は、この詩のもつエキゾチックな薫りに妖しいくらいびつたりで、興奮ものでした。あまりに有名な詩人北原白秋ですが、ちよつと違った白秋を見た、そんな気になさしてくれたお話でした。

山本太郎氏はこの講演の後、十



月三十日の長野県三水村での講演中に倒れ、十一月五日、脳出血のためお亡くなりになりました。

宇都宮市立図書館での講演では予定の時間を一時間近くオーバーする熱弁、詩の朗読なども音吐朗朗、実に堂々たるものだっただけに、突然の訃報に接したただ驚くばかりです。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

落語会



11月20日(日)、第37回落語会が行なわれました。この落語会は、ふだん読書の機会の少ない視力障害者の皆さんに、寄席の雰囲気を楽しんでいただくテーマ図書作りのためのものですが、今回はレギュラーメンバーに加わえ、俳優の真弓田一夫さんが特別出演しました。真打ちとして最後に高座に上がった真弓田さんのだし物は「江戸の夢」(宇野信夫作)。「故あって今は離れ離れになっている父と子が、お互い素性を明かすことなく

その心情を伝えあう「しみじみとした人情噺ですが、声表情しぐさにより何役をもたくみに演じ分けながら、そこにしつとりとした人生を浮き出させていくその語り口に、聴衆は水をうったように聴き入っていました。俳優ながら「語」に打ちこんでいられるという真弓田さんの噺は、落語という枠をこえて「語り」の力強さを感じさせるものでした。視力障害者の皆さんにもきつと喜んでいただけているのではないかと思います。

「うつのみやこども賞」

『1234567』

上半期の本

「うつのみやこども賞」とは、この一年間に新しく出版された日本の児童文学作品を小学校高学年の子ども達が自から読み、評価し、一番良かった作品を表彰するものです。

今年度は第5回「うつのみやこども賞」を選定中ですが、上半期の本が決まりました。那須正幹氏の「1234567」です。この本は、男の子が四人、女の子が三人の七人きょうだいが、様々な大事件を力をあわせて解決していく話です。ぜひ、読んでみて下さい。

目次箱

問 自転車置場はいつもバラバラに自転車置いてあり、とても使いづらいのですが。

答 自転車で図書館を利用する人が多勢います。玄関前の自転車置場は白線を引いて区切りましたので、順番にきちんと並べるよう、お願いいたします。

また、自転車や荷カゴの中の荷物の盗難が増えています。自転車には鍵をかけ、荷物は置き放しにしないようお願いいたします。

ニュースコーナー

読み聞かせ教室

日時 12月4日(日)
午後1時30分
3時30分
講師 紙芝居実演家 右手和子氏
場所 市立図書館3階集会室
テーマ 「紙芝居の楽しい演じ方」
定員 120名
受付 11月25日(金)午前9時30分
から、電話か直接、市立図書館へ。

本の手づくり教室

日時 1月22日(日)
午後1時30分～4時30分
講師 石井力太郎氏
場所 市立図書館3階集会室
内容 はがきの製本
受付 1月13日(金)から、電話か直接、市立図書館へ。
なお、教材費、持参物などの詳細については広報うつのみや1月11日(水)号をご覧ください。

子どもと子どもの本をつなぐ講座③

日時 2月5日(日)
午後1時30分～3時30分
講師 児童文学者 斎藤惇夫氏
場所 市立図書館3階集会室
テーマ 未定
定員 120名
受付 1月27日(金)午前9時30分
から、電話か直接、市立図書館へ。
託児 1才以上20名まで。予約制。

利用案内

●開館時間
午前9時30分～午後7時
ただし、児童図書室は
午前9時30分～午後5時
●休館日
毎週月曜日
国民の祝日
図書整理日(毎月初日または翌日)
●貸出は
図書・紙芝居 5冊
レコード・CD(コンパクトディスク)5枚
(ただしCDは2枚)
ビデオ・16ミリフィルム 5点
●講座の問合せ・申込み
電話または直接図書館へ
電話(36) 0231

貸出状況

区分	63年10月	63年度累計 63/4~63/10
登録者数	976人	127,553人
貸出人数	館内	17,179人
	館外	3,054
	中公	899
	視聴覚	2,975
	計	24,107
貸出冊数	館内	57,481冊
	館外	12,846
	中公	3,123
	視聴覚	7,731
	計	81,181

(注) 登録者累計数は、開館からの累計数
中公は、中央公民館図書コーナー

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				①	2	3
4	⑤	6	7	8	9	10
11	⑫	13	14	15	16	17
18	⑬	20	21	22	23	24
25	⑭	27	⑮	29	⑯	⑰

“89/1月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
①	②	③	④	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑭	⑮	18	19	20	21
22	⑯	24	25	26	27	28
29	⑰	31				

年末年始休館と本の返却について

図書館は、12月28日(水)から1月4日(水)までの期間、休館となります。
この期間に、本をお返しになる方は、ブックポスト(東公民館・中央公民館・市役所支関・図書館入口)を利用していただくことになりますが、ブックポストのスペースには限りがあります。回収は休館中も行いますが、収納できなくなったり、無理に本を入れようとして、破けるなど傷みがひどくなります。本の返却は、図書館が開館してから結構ですので、1月5日以降にしてください。協力をお願いいたします。

ボランティア製作

あたらしい本

▽千一夜物語十(斎藤俊子)▽千一夜物語十一(増山初美)▽千一夜物語十二(小島義則)▽大どろぼうゴロン太と校長先生(大須賀隆子)▽おはなしのろうそく十三(山岸悦子)

声の図書

▽螢草(須藤秀代)▽堀の中の懲りない面々(吉野直利)▽釈迦とその弟子(横山嘉子)▽娘と私の時間(鴨志田正子)▽妖精の女王・彼岸の駅(藤田東子)▽背徳者(青木桂子)▽アフリカ飢えの構図(渡辺美晴)

寄

贈

三好早苗「ノルウェーの森」、杉田知之「分析批評の方法論」、菅宮慶江「波瀾をこえて」、吉田宗俊「小山祐士戯曲全集」、増渕高幸「チカちゃん4年生」、長沢芳英「自律神経失調症は治る」、早川喜代治「会津白虎隊」、福田孝子「芭蕉の句碑」、大野登士「シルクロードを翔ぶ」他多数。
いつもたくさんの方の寄贈をいただき本当にありがとうございます。
なお、今後とも当館では、郷土資料の寄贈を特に望んでおります。